

## 平成 30 年度 洗足こども短期大学 高津区役所保育所等・地域連携共催

### 保育実技研修会が開催されました。

去る 11 月 7 日（水）に、本学キッズスクエアにおいて、保育実技研修会「なんでもあそべるー乳幼児の保育活動と身近な遊具・素材の展開ー」が開催されました。この研修会は、高津区役所に寄せられた保育実技研修会への要望に応えるものとして開催されました。当日は、保育施設の勤務時間に合わせた開会ではありましたが、保育者、高津区役所担当者、本学の卒業生・在校生・教員を合わせ、67 名が集う研修会となりました。

講師は、本学の教授で児童学、保育学を専門とされ、保育の理論と実践に関わる「保育原理」や「保育内容・健康」「保育内容・人間関係」の講義を担当されている神蔵幸子先生でした。

本学幼児教育保育科 落合俊文学長より本学と高津区との地域連携についての挨拶の後、神蔵先生から、受講されるみなさまの緊張をほぐすためのウォーミングアップとして「新聞紙を使った遊び」が提案されました。好きな形をイメージして千切り抜いたり、1 枚の新聞紙を同じ幅で細く長く切ったりすることで自分の頭と体を開放することがねらいでした。そして、この「千切る」という行為は、手と目と脳が連動し、子どもの脳に刺激を与えて指先の運動機能を高めるもので、遊びを通して子どもの発達を促す遊びであることをお話ししてくださいました。新聞紙遊びの最後は、気持ちが解放されるような破き方として、新聞紙をビリビリ破く心地よさを体験しました。



参加者の気持ちが解放されたところで、遊びは子どもにとってどのようなものであるのかについて、「生活を生活で生活へ」という倉橋惣三の言葉から、遊びも生活も子どもと共につくるものであることを具体的な事例（写真）を交えてお話くださいました。また、保育の中で使用する遊具、素材について、上質な素材や丁寧に作られた遊具は子どもにとってよい刺激となるだけでなく、ものを大切に育てる気持ちや育てること、普段の生活の中で使われているものの方が何にでも見立てられ遊びに取り入れやすいこと、試行錯誤を繰り返す子どもにとって無駄使いをふんだんにできる素材が大切であることなど、子どもの経験を見通した保育者の環境作りについても改めて見直す講義となりました。参加者のみなさまが事例の写真を見ながら頷いていて、普段の保育と重ね合わせて聞いている様子が印象的でした。

最後に、高津区役所地域みまもり支援センター保育所等・地域連携 高橋すみ子課長より本日の研修会のまとめをしていただき閉会となりました。

今研修会がたくさんの方の参加者のみなさまの明日からの保育や学習に活かされることをお祈り申し上げます。